

1 主題名 お互いを大切にしながら

(高2-(3)互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。)

資料名 「言葉のおくりもの」(6年「明日をめざして」東京書籍)

2 主題設定の理由

- 本学級の子どもたちは、男女関係なく気の合う者同士で話したり、協力し合ってグループ活動に取り組んだりするなど、友達関係は良好である。しかし、たまに言い合いや誤解によるトラブルがあったり、女子の忠告を男子が素直に聞き入れなかったり、男子の考えを女子が理解しようとしなかったりするなど、男女間において互いに認めようとしめない場面も見られる。これは、周りの友達や異性からの見方を気にするあまり、異性間において相手を素直に認めることができず、反発したり、対立したりしているのだと思われる。

そこで、心身ともに成長し、自我意識や判断力の発達が著しいこの期に本主題を設定する。そして、男女関係なく、相手の立場に立って考え、互いに認め合い、ともに伸びていこうとする態度を育てたい。このことは、本校の教育目標である心豊かで、たくましい子どもを育てる上からも意義深い。

- 「信頼・友情」とは、お互いに信じ合い、相手を大切にしながら自分自身も高まっていこうとする思いのことである。このことは、男女に関係なく、人間が生きていく上で大切にされるべき心である。

また、相手を大切にすることは、相手の人間的な成長を願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまない関係をつくっていくことである。つまり、相手を信じ、自己の利害を乗り越え、相手を思いやる場所に信頼・友情が存在し、その思いをもとに、目標に向かって協力し、忠告し合いがなされることで、ともに伸びていけるものである。したがって、男女に関係なく、協力し合い友情を育てることが大切なのである。

「信頼・友情」に関しては、低学年では、友達と仲よくし、助け合うことを、中学年では、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことを学習してきている。また、第5学年では、友情の大切さを知り、男女仲よく協力し助け合うことを学習している。これらを受けて、本主題では、互いに信頼し、自己の利害を乗り越え相手を思いやることが真の友情であることを学習する。このことは、中学校での、友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うことの学習へと発展する。

- 本資料「言葉のおくりもの」は、消しゴムを拾ってあげたという親切な行為が、かえって男女間に不信を生み出すが、すみ子の誠意ある態度に、主人公の一郎が少しずつ心を開いていくという学校生活の中での話であり、子どもたちが身近に感じる話題である。

本主題の指導に当たっては、相手の立場に立って考え、互いに認め合い、ともに伸びていこうとする態度を育てたい。そのために、本時では、次のような手だてをとる。

「導入段階」においては、事前アンケートにより男女が協力することへの自分の見方、感じ方、考え方を想起させ、本時学習の方向をつかませる。

「展開前段」においては、資料を範読後、主人公の一郎の立場から、考えをふくらみ図に書いたり、交流し合ったりし、「どう気持ちが変わったか」「それは何に気づいたからなのか」を中心に男女の協力にかかわる自分の考えを見直しをさせる。

「展開後段」では、アンケートや心のノートを使って、男女の協力に対する自分の考えを見直しをさせる。

「終末段階」では、道徳ノートを使って、自分の気づきを書いたり、学び方を評価したりして、本時学習のまとめとする。

3 ねらい

- 学校生活の中で、男女を問わず、相手の立場に立って考え、互いに認め合い、協力し、ともに伸びていこうとする態度を育てる。

4 計画(1時間)

- 友達に関するアンケート、事前読み _____ 課 外
- 男女の協力について話し合う。 _____ (1) 本 時
- 卒業式に向けた取組 _____ 課 外

開 後 段 (5 分) 終 末 (2 分)	3 これまでの生活の中で、男女の協力にかかわる考えを出し合い、自分の生き方を見直す。 <input type="checkbox"/> 男女が協力してよかったと思った経験とそのときの気持ち <input type="checkbox"/> 心のノートP51を読み、感想を発表し合う。 ・「男子と女子の友情について思うこと、考えること」を書く。	<input type="checkbox"/> アンケートから事前を選んでおき、紹介し、自分にも同じ経験や気持ちがないかを考えさせる。
4	本時学習をまとめる。 <input type="checkbox"/> 本時学習について考えたことをまとめたり、本時学習の学び方を評価したりする。 <input type="checkbox"/> 教師の激励を聞く。 ・卒業に向け、お互いに励ましあい、高まっていけるような、それをお互いが願うような男女間の関係であってほしい。	<input type="checkbox"/> 道徳ノートに簡単に学び方を評価し、次の学習に生かす。

7 指導の実際

(1) 導入段階

導入では、事前にとった内容項目にかかわるアンケートをまとめた表(資料1)を元に、男女の協力についての実態を出し合い、「男女仲よく協力するために大切な心を見つけよう。」という学習の方向付けを行った。

- 1 男女で協力したことはありますか。それはどんなことですか。
 ある 27名(87%) ない 4名(13%)

・修学旅行20(フィールドワーク10 班行動5 調べ活動3 など)
 ・運動会15(応援団3 騎馬戦1 組体操4 係2 玉入れ1 など)
 ・給食の標語2 ・縦割り掃除2 ・委員会1

- 2 男女で協力して「よかったな」と思ったことはありますか。それはどんなことですか。
 ある 19名(61%) ない 12名(39%)

・修学旅行(フィールドワーク8 班行動1)
 ・運動会5(組体操1 ・エンドレスリレー1 ・玉入れ1 など)
 ・縦割り班2(話し合い1・縦割り掃除が時間内に終わる1)
 ・トイレ掃除1 ・調理実習1 ・委員会1 ・宿泊体験の夕食づくり1
 ・スポーツの時の男子1 ・女子にわからないことが男子がわかっていたとき1
 ・女子がいると楽しくなる1 ・力のいる仕事をしてもらえる(荷物持ち)1

- 3 男女で協力できなかったことはありますか。それはどんなことですか。
 ある 19名(61%) ない 12名(39%)

・男子が掃除をしない3 ・掃除で男子が注意を聞かない2 ・掃除で男子がふざける2
 ・給食や話し合いの時男子が変なことを言う2 ・女子の助言を聞かない1
 ・修学旅行のフィールドワークで、言い合って道に迷った2 ・男子が手伝わない1
 ・掃除の時女子が暴力をふるう1 ・女子は強く言いすぎるし、男子は話を聞かない1
 ・修学旅行で、公園で男子が遊んだ1 フィールドワークでばらけた1
 男子に文句を言った1 男子が言うことをきかなかった1
 けんかした1 男子が一人で行動をした1

- 4 「男女で協力しておけばよかった」と後から後悔したことはありますか。それはどんなことですか。
 ある 5名(16%) ない 26名(84%)

・運動会のエンドレスリレー3 ・修学旅行2

【資料1】内容項目にかかわるアンケートをまとめた表

《考察》

協力した経験（87%）があるものの、それを「よかった」と思っていない（39%）ことや協力の大切さがわかっていても実際は協力できていない（61%）という現状に気づかせ、学習に必要性を感じさせたことで、「男女仲よく協力するために大切な心を見つけよう。」という学習の方向性を持たせることができた。

（2）展開前段

この段階では、主人公の一郎の気持ちに共感させ、すみ子の言動と比べたり、過去の一郎の言動と比べたりすることにより、価値に迫らせていった。そのために、言葉のおくりものを受け、握手をする最後の場面を取り上げ、一郎はどんな気持ちか、それはなぜかをふくらみ図を元に考えさせた。



【問題場面を話し合う子どもたち】



【ふくらみ図をかく児童】

《考察》

ふくらみ図を通して子どもたちは、「言葉のおくりもの」をもらったうれしさ（快の感情）とこれまでのすみ子への言動への後悔の念、自分に対する情けなさなどの（不快の感情）両方に共感することができた。

また、自分たちの考えを交流することで、以下のような「男女仲よく協力するために大切な気持ち」を話し合うことができた。

ほめ合う（いいところを見つける）、協力し合う、楽しむ、感謝の気持ち
うれしいと思う気持ち、周りが変わる（学級全体）、気にしない
思いやり（お互いの気持ちを考える）



【自分の考えを話し合う子どもたち】

（3）展開後段

この段階では、アンケートを振り返り、心のノートP51を範読し、「女子は強く言いすぎるし、男子は話を聞かない」という実態について話し合い、意欲を高めた。

《考察》

心のノートの内容を子どもたちは身近に感じる事ができ、今後の心のもち方を考えることができた。

